



経営基盤強化戦略の実践に向けて

不祥事の早期発見・未然防止、社会規範の変化への対応など、適切なコンプライアンス・ガバナンス態勢の構築と実践が、JAグループの組織運営における優先課題となっています。このため、経営環境が一段と厳しさを増すなかにおいて、JAごとの実情・特性等を踏まえた経営基盤強化の取組みが求められています。

そこで、第30回JA青森県大会では、組織・経営基盤の強化のひとつとして、組合員から信頼される組織・事業運営の実践に向けて、①組合員本位の業務運営②ガバナンスの強化③内部統制の強化（JA版3線モデルの実効性向上）に取り組むこととしています。

このため、本会では、「リスク管理基本方針」、「リスク管理規程」について、県域としての取組方針を定め、実効性のあるコンプライアンス・ガバナンス態勢の構築と実践を目指します。「リスク管理基本方針」は、JAの役職員がJAの信頼性を維持し、組合員・利用者等に安全・信頼・満足を提供するため、事業遂行にあたって様々なリスクを的確に把握、評価し、管理・対応していくことを定めるものです。また、「リスク管理規程」は組合の経営上のリスクや内部統制の4つの目的である「業務の有効性及び効率性」、「財務報告の信頼性」、「業務活動にかかわる法令等の遵守」、「資産の保全」を阻害するリスクを総合的に把握・管理することで、事故又は不祥事の発生を未然に防止し、経営の健全性を確保することを目的とするものです。

次に、JA経営者の理解と主導のもと、内部統制・リスク管理態勢の現状について、点検・評価を行ったうえで、JAの内部統制および3線モデルによるリスク管理態勢の整備・強化に取り組みます。

さらに、リスク管理にかかる専門人材の配置・育成に関して、JAとしての基本的な考え方・具体策等をJAで定める人材育成基本方針・人材育成計画等に明記する取り組みも検討いたします。

また、リスク管理における専門人材の配置と育成に関して、階層別研修によりリスク管理、コンプライアンスの実務担当者や部門長、役員の研修会を開催し、リスク管理部署によるリスク・マネジメントの具体的な方法について強化し実効性を高めてまいります。

J A 青森中央会

継 12 目次 C O N T E N T S

巻頭言	1	経営の窓口	16
特集	2	組織農政通信	18
フラッシュ	6	J AおいらせN E W S	19
インフォメーション	8	輝き・部会のチカラ	20
あおもり通信	14	新風	21
実践農業者支援	15		

表紙の写真：新・農のある風景～其の117～ ナガイモ秋堀り最盛期（JAゆうき青森）

りんご特集

**タレントの王林さん「私たちの世代がリンゴの魅力を発信」弘前市で植栽150周年式典（9／13・14）
青森県**

青森県に初めてリンゴが植栽されてから150年となるのを記念した式典が弘前市で開かれた。県りんご協会の内山国仁会長は「技術と思考を次の時代の人に伝承し、100年後までリンゴを作っていく」と呼びかけた。

経営者当たりの栽培面積を広げ、新規就農者を確保することによって、2040年までに生産量を23年の37万4千トンから40万トン、販売額も1.5倍の1,800億円以上に増加させるための総合戦略を県が発表した。

トークイベントでは、本県出身タレントの王林さんが「私たちの世代が未来につなげようと、魅力を発信していくことが大事」と訴えた。ご当地アイドル「りんご娘」と品種を当てるゲームにも挑戦し、会場を盛り上げた。

式典とイベントは、県や関係団体で構成する実行委員会が主催。県によると、明治政府の殖産興



青森リンゴ植栽150周年記念式典・イベント

業政策の一環で県庁構内に西洋リンゴの苗木3本が植えられたのが始まり。現在は国内生産量の約6割を占めている。

**生産者にリンゴの精算報告
弘大生との消費宣伝結果も（7／17）
つがるにしきた**

つがる市のハーモニー未来館で「りんご精算報告会」を開き、生産者や関係者約115人が参加した。市場関係者が2024年産リンゴの販売情勢を報告し、JAが精算報告を行った。

2024年産リンゴの開花は、平年より早まり果実肥大は順調に推移し、平年をやや上回った。猛暑の影響による花芽不足や受粉環境の悪化などにより、主力のサンふじを中心に着花量の不足が目立ち、収穫量に大きな影響を及ぼしたが、集荷実績は予約計画261,637箱に対し、278,922箱となった。2024年産のリンゴは大幅な収量減の影響もあり、特に晩生種サンふじは例年にはない高値基調での販売となった。

また、弘前大学とJAつがるにしきたで構成する「未来創造研究所」が、新潟県で行った販売促進会の報告も併せて行った。新潟県のスーパー「チャレンジャー（燕三条店・巻店）」の店頭で、葉取らずリンゴ「陽だまり」の試食会とアンケートを1月に実施。502人の回答を基にした集計結果を弘大生が発表した。

アンケートの集計結果から、消費者は価格よりも味や香り、色などの品質と产地に高い関心を持ち、葉取らずリンゴの評価が良かった回答者ほど、リンゴ全般に対する購入意欲が高い事が判明。葉取らずリンゴ全般の消費底上げのきっかけとなること、また、試食などで味を知った上で買う



消費宣伝のアンケート結果を発表する弘大生

人が多いことから、今後も試食を含めた販売会をやってはどうかと、JAや生産者に対して提案した。

「まるかじりJAPAN」でJAつがる弘前りんごをPR販売 (9/13~15) つがる弘前

大阪府泉佐野市で、大阪・関西万博に合わせて4月12日から10月13日の土日祝日で開催する全国物産館「まるかじりJAPAN」にJAつがる弘前が出店した。

全国物産館「まるかじりJAPAN」は、全国各地の特産品をPR販売し、各地のグルメや魅力を「まるかじり」できる。

りんご販売部は、若い世代にもリンゴを食して貰いたいとの想いでコラボレーションしているバーチャルシンガー「初音ミク」がデザインされた法被を着て、早生種リンゴ「つがる」と「きおう」を販売し、JAつがる弘前りんごの美味しさをPRした。同部販売課の出雲正人課長は「さまざまな活動を通して、JAつがる弘前りんごの美味しさを広め、認知度向上を目指していく」と話す。



JAつがる弘前りんごをPR販売するイベント関係者

相馬小学校 農業ふれあい教室 (10/3) 相馬村

弘前市立相馬小学校は、「農業ふれあい教室」でサンふじの葉取り体験を行った。同校の3年生9人が参加した。

この体験は弘前市紙漉沢地区の大場隼人さんの園地で実施。2人ずつ5班に分かれて作業を始め、最初はおぼつかない手つきであったが、すぐに慣れ、次々と作業を進めた。

質問コーナーでは、「葉を取る際に間違って落

としたリンゴはどうなりますか?」と尋ねた児童に対し、大場さんは「農協に持つて行ってジュースなどになりますよ」と丁寧に答えた。

次回は収穫体験を予定している。



葉取りをする小学生

「トキ」の選果最盛期 輸出も対応 (10/14) ごしおつがる

JAごしおつがる中央りんごセンターで「トキ」の選果作業が最盛期を迎えた。作業員の目視と光センサーで糖度や熟度を測定して品質を均一に保つ。

本年産は7月の降水量が少ない影響で小玉傾向だが、食味は安定している。「トキ」は食味を重視し、糖度15℃以上で品質の良いものは「プレミアム」と格付けし出荷する。同センターでは約9,000箱（1箱10kg）の出荷を計画し、関西方面を中心に出荷するほか、一部は輸出にも対応する。

「トキ」の選果は10月6日に始まり、10月いっぱい続く見込みで、その後は「紅玉」「名月」などの品種に移っていく予定。



「トキ」の選果作業が最盛期を迎えた中央りんごセンター

航空会社社員が収穫作業を応援 (10/28~30) 津軽みらい

日本航空株式会社（JAL）の社員4人は、「農作業応援活動」のためJA津軽みらい管内の平賀地区を訪れ、収穫作業を行った。この活動は、

2020年から毎年実施している。

日航社員は、リンゴを傷つけないよう慎重に行い、高い場所にあるリンゴはハシゴを使って収穫した。初めて参加した社員は「リンゴは好きで毎日のように食べているが、リンゴ園や収穫前のリンゴを間近で見たのは初めて。農家の皆さんとふれあいながら行う農作業はとても楽しい」と話した。



収穫作業を行う J A L の社員

りんご晩成種目揃会 (10/29)

八戸

J A八戸りんご専門部三戸支部は、J A三戸営農センターでりんご晩成種目揃会を行い、20人が参加した。

佐々木幸雄支部長は「本年は病害虫被害が多いと思う。収穫の合間に着色管理など忙しい時期を迎えているが、そのような中でも、品質のよいものを収穫するよう心掛けてほしい」とあります。

全農あおもりりんご課と千葉青果が販売状況を報告したほか、三戸営農センターの小野宏典係長が荷受体制と入庫方法について説明した。さらに、畠中喜浩 J A販売担当



出荷基準を確認する生産者

は「カメムシやカイガラムシなどの被害が見られ、選果格外になる果実が多いと思う。格外品の販売も尽力し、手取りの底上げを行っているので、J Aへの出荷をお願いしたい」と呼びかけた。

令和7年度 青森市産りんご大市 (11/22・23)

青森

青森農協浪岡青年部は、青森市浪岡地区管内の農業者で組織されている。青森市浪岡地区は、リンゴ栽培が盛んな地域ということもあり部員のほとんどがリンゴ農家。同青年部の活動もリンゴに関する活動が主となっている。

春の開薬（かいやく）作業は、リンゴの開花時期である4月下旬から5月上旬にかけて、一日10人位で班を編成し交代で作業を行う。摘花作業をした花から、機械で薬（やく）だけを採種し、手作業でふるいにかけ加温し開薬させた花粉を販売する。温暖化による影響もあり、近年、マメコバチが飛ばなくなっている中、開薬は人工授粉には欠かせない作業で、新規の購入者も増えた。

秋には、青森市で毎年11月下旬に2日間開催されるりんご大市即売会に参加し、J A、他団体とともに贈答用や家庭用リンゴの販売を行う。りんご大市は丹精込めて育てたリンゴを買い求めるお客様の顔が見える貴重な機会となっている。



青森市産りんご大市でリンゴを販売する浪岡青年部 工藤慎也部長（中央）





まいにち 毎日200グラムの果物を食べると
からだにいいと言われているよ。

200グラムの果物って どのくらいなんだろう?

リンゴなら1個、
ミカンなら2個が
200グラムの
めやすだよ。

果物の重さのめやす



果物には、病気の予防
になると言われている
ビタミンや、
食物繊維がたくさん
含まれているよ。

おいしくて
からだにいい果物を
まいにち 每日食べよう!



厚生労働省
(健康日本21(第三次))より

大切な食べものを
作ってくれる
農家さん、
ありがとう!



食べものは、農家さんが心をこめて 作ってくれているよ。



雨の日も、暑い日も。耕して、
種をまいて、育てて、収かくして。
農家さんは、心を込めて
わたしたちの食べものを作っ
てくれているよ。



そうやって農家さんが育てた
「いのち」のめぐみを
わたしたちは食べているんだね。
だから、これからも
大切に食べよう!

美咲ちゃん × HELLO KITTY

©みんなのよい食プロジェクト © 2025 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L860539



耕そう、大地と地域のみらい。

フラッシュ



JA
青森

第16回JA秋まつり開催（10／25）

秋晴れのもと本店敷地内で開催された「JA秋まつり」。出店23店舗とキッチンカー5台が並び1,000人以上の来場者で賑わった。飲食ブースでは、新そばを味わう姿も見られ、また、昨年に引き続き企画した「大根収穫体験」も人気を集め、500本の大根が収穫された。また、JA共済の地域貢献活動事業を利用し、先着500名の来場者に農産加工品とあおもり海道新そばロールケーキをプレゼントした。



小学生が米施設を見学（11／5）

五所川原市立中央小学校の5年生80人は、JAの精米施設やライスセンターなどの米関連施設を見学した。児童らは総合的な学習として、米づくりに関わる仕事を学びながら、地域農業への理解を深めた。

見学の最後には「どれくらいの量を扱っているのか」「なぜ今お米が高いのか」といった質問が次々と寄せられ、児童の関心の高さがうかがえた。

相馬小学校 リンゴ「サンふじ」収穫＆販売体験（11／4・10）

弘前市立相馬小学校の3年生が「農業ふれあい教室」でリンゴ「サンふじ」の収穫、販売体験を行った。

収穫体験は4日、同JA女性部やJA職員の助けを借りながら、真っ赤に色づいたリンゴを収穫した。児童が収穫したリンゴは、10日に同JA特産物直売センター「林檎の森」において児童みずから販売した。用意した50袋のリンゴは約1時間で完売。児童は「声を出して、みんなで作ったリンゴを買ってもらえて嬉しかった」と満足げだった。



J Aつがるにしきた

多彩な催し 農協まつり賑わう（11／2）

つがる統括支店は、つがる市稻垣交流センターで農協まつり「ふれあい感謝祭」を開催した。

オープニングでは、学校法人館田学園五所川原第一高等学校の津軽三味線部が迫力ある演奏を披露した。続いて、昨年の「上原げんと杯争奪のど自慢大会」で優勝した三津谷有華さんが伸びやかな歌声で会場を魅了した。AOMORI花嵐桜組のよさこい演舞では、観客やJA職員が飛び入り参加し、会場が一体となって盛り上がった。

親子で農の魅力発見！（11／9）

JAごしょつがる 総務課くらしの活動係は、「家族で楽しく収穫体験＆施設見学」を開いた。収穫体験では、晚生種リンゴ「サンふじ」の収穫に挑戦し、施設見学では、東部ライスセンター内の設備を見学しながら、米が消費者に届くまでの生産者とJAの役割について学んだ。参加した親子は「お米や果物は、農家の方々が一生懸命に栽培していることを子どもに知ってほしいと思い参加した。良いイベントなので継続して貰えたら」と笑顔で話した。



J Aつがる弘前



J A相馬村



J A津軽みらい

高さ2メートルのジャンボおにぎり完成

町の合併20周年を祝うおにぎり (11/16)

藤崎町の「第13回ふじさき秋まつり」では恒例のジャンボおにぎりづくりが行われ、「はれわたり」10俵分(約600kg)が使われた。

同JA常盤支店管内のときわ良質米生産部会の部会員や、女性部員ら15人が作業し、完成したおにぎりは高さ約2m。来場者には、はれわたりで作ったおにぎり2,000パック（1パック2個入り）が、無料で配布された。



J A十和田おいらせ

ながいも早掘り No.1決定戦 (11/16)

野菜振興会ながいも専門部会は、青森県「ながいもの達人」の仁和勝千代さんの圃場で「ながいも早掘りNo.1決定戦」を開き、過去最多の201人がエントリーした。

参加者は掘った穴に体をねじ込ませながら、地下1メートルに伸びるナガイモを全力で掘り起こした。

大会終了後は、青空の下、ナガイモをたっぷり使用したカレーライスやすいとん汁、そぼろ煮を参加者全員で味わった。



J A八戸

J Aゆうき青森



天間林小学校 アピオス収穫 (11/12)

七戸町立天間林小学校の3年生は、今年5月に植付したアピオスの収穫体験学習を行った。地元の生産者やJA職員が作業を手伝い、コンテナいっぱいに収穫した。

児童らは、慣れない熊手を使って土を掘り起こしながら収穫。大きく育ったものや長く連なったアピオスを見つけると、歓声や笑い声が飛び交った。

児童らは、「大きく育って嬉しい。早く食べたい」と笑顔で語った。糖度を高めるため追熟した後は、1月に調理実習で味わう予定だ。



J Aおいらせ

地元産農産物が魅力

メイプルタウンフェスタ2025 (11/1・2)

六戸支部の青年部と女性部および支店職員は、六戸町のメイプルタウンフェスタ2025に参加し、地元産農産物の特価販売や串餅などの加工品販売を通じて、消費拡大とJAのPRを図った。

米や野菜、りんごなどは、市価より安いとあって来場者は満足した様子だった。

J A八戸がマッチスポンサーを務める (11/2)

八戸市のプライマーズスタジアムで行われた2025明治安田J3リーグ第34節「ヴァンラーレ八戸」対「ギラヴァンツ北九州」の試合で、青森県南のスーパーマーケット「よこまちストア」と共にマッチスポンサーを務めた。

若林政秀組合長は「JA八戸は、地域密着で活動を続けるヴァンラーレ八戸を応援している」とあいさつ。「ヴァンラーレ八戸、優勝へ向けてまっしぐら！」と「まっしぐら」ののぼりを掲げ、ヴァンラーレ八戸へ新米の「まっしぐら」150kgを贈呈した。試合前のキックインセレモニーでは、若林組合長が見事なキックインを披露し、会場を湧かせた。

第40回青森県生協大会出展

J A青森中央会は10月7日、青森市のリンクステーションホール青森で「第40回青森県生協大会」にブースを出展した。国際協同組合年（ＩＹＣ2025）に当たり、協同組合の仲間として初めて同大会に参加した。

中央会では押し花のように乾燥させた「押し野菜・果実」を使ったハーバリウムを作成できるワークショップを実施。野菜や果物を使ったワークショップを体験してもらうことで、消費者に対し国消国産運動、食農教育をPRした。

中央会の出展ブースには75人が参加し、野菜や花の色の組み合わせを楽しみながら作業をした。

また、ワークショップ参加者に笑味（えみ）ちゃんが描かれた国消国産のチラシや持続可能な開発目標（SDGs）など、JAの取り組みを紹介するパンフレットなどを配布した。



▲ハーバリウムを作る参加者

令和7年度第2回通信員研修会開催

J A青森中央会は10月23日、県農協会館で日本農業新聞通信員会議・研修会を開き、県内JA・連合会通信員など17人が参加した。

会議では2025年度上半期の日本農業新聞青森県



▲研修で撮影練習をする通信員

優績通信員表彰や、2026年度青森県版の掲載内容などについて話し合いをした。

研修会では日本農業新聞より講師を招き、「映える工モい写真とは？」と題し写真を上手に撮る研修を実施。構図やピントの合わせ方などを座学で学び、実際に県産品の野菜、果実を被写体として撮影の練習をした。参加者は座学で学んだ被写体の配置や撮影する位置調整を意識し撮影に臨んだ。また、マニュアルフォーカスを利用し、ぼかしを入れた撮影にも挑戦した。

さらに、東北支所職員が下期の取り組みを説明し、今後も積極的な記事送稿を呼び掛けた。

J Aでは今後とも広報通信員のスキルアップ、情報発信力の強化に力を入れる。

中堅クラス職員フォロー研修会開催

J A青森中央会は10月23日、県農協会館で県内JAの中堅クラス職員に対するフォロー研修会を開き、19人が参加した。

本研修は仕事を通じたコミュニケーションを振り返り、メンターシップに係るスキルを習得し、魅力ある職場づくりと協同組合らしさの向上を図ることがねらいである。日本メンター協会の豊田勝義氏を講師に招き、「メンターシップの理解と実践」というテーマで研修を行った。研修は、ワークショップ形式で行われ、コミュニケーションの基本からメンターシップの活用法、管理職リテラシーについて学んだ。

講師の豊田氏は「本研修は体験と振り返りが学習のベースとなり、そこで気が付いたことが行動を見直す大きなきっかけとなる。白紙の状態で実習に取り組み、気づきを楽しんでほしい。また、今回の学びを通して踏み出そうと強く感じた一歩をこれから実行していこう」と参加者に呼びかけた。

参加者は「コミュニケーションの大切さや難しさを改めて学んだ。講師の説明は分かりやすく、



▲グループワークをサポートする豊田氏（中央）

内容も理解できた」と話す一方で、「今後、業務に活かせるか不安」との声も上がっていた。

中央会では、今後もさまざまなフォローワー研修を行い、より良い職場環境を作れるように働きかける。

次世代リーダーフォロー研修会開催

J A青森中央会は10月30日、県農協会館で「次世代リーダーフォロー研修会」を開催した。県内5JAから計10人が参加した。

本研修は今年度から開始した取り組みである。青森県農業の展望や組織課題などに関する事柄をテーマに、今後の各JAの組織基盤強化につながる発想を促すことを目的としている。

講師に青森公立大学経営経済学部地域みらい学科の生田泰亮准教授を招き、「青森県の農業の現状と組織課題」と題し講義。農協の経営課題や組織課題について、グラフ化された分析データを基に説明した。参加者は農協の競合相手やマネジメント・ガバナンスについて各レベルの視点からの戦略的課題について知識を深めた。

講義後はJA組織基盤強化策についてのグループ討議を行った。組織内のコミュニケーションの取り方、人財の育成などをテーマにディスカッションを行った。



▲講義をする生田准教授

青森県議会農林水産委員へ要請

青森県農協農政対策委員会とJA青森中央会は10月31日、青森県庁で青森県議会農林水産委員との意見交換会を開催し、「持続可能な農業・農村づくりに向けた対策」と「野生鳥獣被害対策の強化」について、国や県に働きかけるよう要請した。

J A側から乙部輝雄委員長（JA青森中央会会長）や県内JAの組合長ら18人が訪問。県議会側は和田寛司県農林水産委員会委員長ら6人が出席した。

自然災害の激甚化や農業生産基盤が弱体化するなか、農業者が将来展望を持ち営農を継続できるよう、乙部委員長が和田委員長に要請書を手渡した。

「持続可能な農業・農村づくりに向けた対策」では①農業関連予算総額の拡大②農業生産・流通を支える共同利用施設の再編集約・合理化③持続可能な水田・畑作農業対策の早急な確立などについて要請した。

「野生鳥獣被害対策の強化」では①野生鳥獣被害対策の財政支援の拡充と地域間連携の強化②個体群管理、侵入防止対策、生育環境管理の徹底運用を通じた現場力の強化③人材育成と普及啓発の充実などについて要請した。

意見交換会ではコメの需給と水田農業経営の安定に向けた対策の確立やクマ、イノシシなどによる農作物の被害、農業施設の老朽化など地域農業が抱える課題について活発な意見が交わされた。

乙部委員長は「農業従事者の慢性的な人手不足による農業生産基盤の弱体化に加え、度重なる野生鳥獣による農作物被害が発生するなど、農家組合員の営農意欲の低下が危惧される状況にある。農家組合員が将来展望を持って営農継続できるよう、要請の実現をお願いしたい」と述べた。



▲和田委員長に要請書を手渡す乙部委員長（左）

青森県農協青年部協議会 国会議員へ要請

青森県農協青年部協議会は10月31日、東京都千代田区の国会議員会館を訪れ、県選出国会議員に対し「持続可能な農業および野生鳥獣被害対策の強化」に関する要請を行った。同協議会の斗沢正和委員長（JA十和田おいらせ）をはじめ、役員



▲津島淳議員（中央）に要請書を渡す斗沢委員長（左から2人目）

ら4名が農村地域の現場で直面している課題を訴えた。

この要請活動は地域単位の共同利用施設整備への助成の拡充、農業機械の導入補助拡充、備蓄米の適切な買い入れ、肥料・燃料高騰への対応などを求めたほか、ツキノワグマなどの野生鳥獣により深刻化する農作物・人身被害の対策強化を強く訴えた。

意見交換では、農業現場の複数地域でクマの目撃・出没が相次ぎ、営農活動の断念につながる事例が報告されていることに対し、同協議会役員より「電気柵・センサーダメラなどの購入に対する補助率引き上げ」や「捕獲後の処理・流通体制の整備」など、支援を求める声があがった。

同協議会は今後も次世代の担い手が夢を持てる環境づくりのため、要請活動に取り組んでいく考えだ。

ようこそ青森へ！ JA鹿児島県女性組織協議会と交流会

青森県JA女性組織協議会は11月6日、青森市のホテル青森でJA鹿児島県女性組織協議会と交流会を実施した。

2024年2月に青森県JA女性協が鹿児島県に創立70周年記念視察研修旅行を行い、鹿児島県JA女性協と交流したことがきっかけ。今回は鹿児島



▲津軽こぎん刺しのくるみボタンの制作を楽しむ参加者



▲方言クイズ大会で津軽弁を聞く鹿児島県女性協の皆さん

県JA女性協が創立70周年を迎え、84人が青森県を視察。昨年に引き続き、交流を深めた。

交流会では、青森県JA女性協の松橋久美子会長が「青森に視察に来られると聞いたときから楽しみに待っていた。青森県役員一同、大歓迎する。視察は目的地だけでなく、バス移動中の景色も楽しんでほしい」とあいさつをした。

イベントでは「津軽こぎん刺しのくるみボタンオーナメント」を制作。青森の伝統工芸に触れてもらうことを目的としている。用意したこぎん刺しは青森を代表した農産物であるリンゴを題材にしており、青森県JA女性協役員が力を合わせ、1針1針心を込めて参加者全員分を用意した。制作では青森県JA女性協の役員がひとりひとり丁寧にサポート。鹿児島県JA女性協の部員は「かわいくできあがった。今日のために用意してくれてとてもうれしい」と話し制作を楽しんだ。

また、「方言クイズ大会」も実施。ヒントとして各県の役員から方言を使った例文をリアクション付きで流暢（りゅうちょう）に訛り、会場は大いに盛り上がった。正解数が多かった各県上位3人には、リンゴ10kgや大島紬（つむぎ）のポーチなど豪華景品が贈られた。

参加した鹿児島の部員は「昨年のご縁が無ければ青森には来ることがなかったと思う。今度は家族旅行で青森に来たい」とコメントした。

行事（12／10～1／10）

12月	
10日	退職準備セミナー（県農協会館）
11日	IYC2025青森県実行委員会記念集会、2025国際協同組合年青森県記念集会（リンクステーションホール青森）
12日	次世代リーダー育成研修会ユニット4（県農協会館）
13日	第44回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・图画コンクール表彰式（ホテル青森）
14～17日	県JA協議会 農業視察研修（第2班）（韓国）
17日	管理・監督者クラスフォローリンピック（県農協会館）
19日	J A役員エンゲージメント調査結果に係る改善取組み協議【第4回】（JAゆうき青森 本店）
23日	人事考課者研修会2（県農協会館）
1月	
9日	定例理事会（県農協会館）

国消国産マルシェにJAバンクPRブースを出店

JAバンク青森では、11月22日にカクヒログループスーパーアリーナで開催された「国消国産マルシェ2025」にてJAバンクPRブースを出店した。

当ブースでは、JA青森とJAバンクのチラシ、ポケットティッシュを手渡しした。くじ引きによる抽選も行い、1等のお客様には、JAバンクのマスコットキャラクター「よりぞう」のぬいぐるみが当選した。2等、3等ではお皿や「よりぞう」のグッズが当選し、開会直後には多くの来場者が列を作った。

また、ブースの隣で元気に動く「よりぞう」と写真を撮り、来場いただいたお客様にJAバンクアプリ・アプリプラスの紹介、JAバンクの取組みやローン等のサービスをPRした。JA青森の移動店舗も設置し、お客様からのご相談の対応、窓口でのタブレット操作の利便性を案内した。



▲当日の様子



▲移動店舗

2025年度 防犯訓練実施

農林中央金庫青森支店では、11月14日に青森警察署みなみ交番の指導のもと、2025年度防犯訓練として窓口強盗襲撃模擬訓練を実施した。

訓練は、二人組の強盗が職員を人質に窓口に現れ、現金を強奪して逃走するという設定で行われた。強盗役の警察職員の怒号から始まった訓練は緊張感が流れたが、職員はそれぞれの役割に基づき冷静に対処した。

その後、みなみ交番の所長から講評と防犯指導が行われた。犯人の特徴を覚える際は、犯人の中から1名を選択し観察するほうが効率が良いこと、普段の業務から来店客への声かけが防犯意識の高さを印象付けることが重要である旨の指導があった。

当支店では、今後も定期的に防犯訓練を行い、支店内の防犯体制強化と防犯意識向上に取り組んでいく。



▲訓練の様子

行事 (12／10～1／10)

農林中央金庫

12月

19日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）

1月

8～9日 FP対策講座（県農協会館）

「全農フェス」の開催

J A全農あおもりは11月15日、青森市の青森産業会館で「全農フェス」を開催し大勢の来場客で賑わった。

このイベントは消費者と生産者に対して事業を周知するとともに、体験型イベントによる消費者との交流を目的としている。

全農あおもりの各部門はそれぞれ独自のブースを設け、来場者に事業内容を紹介した。ブースには、消費者が楽しみながら理解を深められるよう多様なミッションが用意され、家族連れをはじめ多くの来場者で賑わいを見せた。

ステージイベントでは部門対抗のプレゼンバトルが行われ、各部門の職員が日頃の業務内容を1分間で紹介した。個性あふれる発表が並ぶ中、60人の審査員による投票で優勝部門が決定した。

オープニングセレモニーには全農あおもり運営委員会の乙部輝雄会長が登壇し「このイベントを通してJ A全農あおもりが皆様とより身近にふれあい、私たちの活動への理解を深めていただきたい」と話した。



▲ブースでミッションを楽しむ来場者

「やすらぎホール音楽祭」の開催

J A全農あおもりは11月24日、「やすらぎホール音楽祭」を開いた。場所は、黒石市の津軽葬祭センター「J A やすらぎホール黒石」。入場は無料で、多くの来場者で賑わった。

幸成保育園によるキッズダンス、正調黒石ねぷた囃子、明教寺住職の三明智顕さんによるテノール独唱コンサートや、津軽民謡歌手のかすみさん

の民謡ショーで会場を盛り上げていた。

また、60歳以上先着40名様には、メモリアル写真撮影会を無料で提供した。

来場者からは「イベントに参加してよかったです」「楽しかった」などの声があり、今後もJ A葬祭の認知度向上に努めていく。



▲コンサートを行う三明智顕さん

**行事 (12/10~1/10)****12月**

26日 歳末市（農協会館）

1月

9日 運営委員会（農協会館）

**令和7年度 JA共済青森県小・中学生
第69回書道コンクール・第48回交通安全
ポスターコンクール表彰式の開催**

J A共済連青森は、10月29日（水）青森県農協会館において「令和7年度JA共済青森県小・中学生書道コンクール・交通安全ポスターコンクール表彰式」を開催した。

両コンクールは、共済事業の理念である相互扶助と思いやりの精神を次世代を担う小・中学生へ伝えていくとともに、児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に「書道コンクール」を、児童・生徒の図画工作・美術教育の高揚と交通安全思想の普及・浸透を図ることを目的に「交通安全ポスターコンクール」を開催しており、地域貢献活動（文化支援活動）の一つとなっている。

表彰式ではJA共済連青森の葛西本部長から書道半紙の部、書道条幅の部、交通安全ポスターの部の「最優秀賞」受賞者と「優秀学校賞」受賞校へ賞状と副賞の授与が行われた。

受賞者皆さんのお作品には、日々の努力と創意工夫が光っており、会場は温かい拍手に包まれながら表彰式が執り行われた。

なお、「最優秀賞」受賞作品は県代表作品とし



▲葛西本部長より表彰される受賞者



▲最優秀賞、優秀学校賞を受賞された皆さん

て全国コンクールに出展され、全国の舞台でも輝くことが期待されます。

共済担当部課長会議の開催

J A共済連青森は11月18日に青森県農協会館で「共済担当部課長会議」を開催した。

開会にあたり福田副本部長より「日頃より推進活動の第一線でご尽力いただいている皆様に心より感謝申し上げます。令和6年度の雪害調査・支払について94%は処理済みですが残りの約300件についても迅速な支払処理に努めます。また、今年度はがん共済を中心に事業基盤実績・推進総合実績ともに好調に推移していますが、だからこそ、改めて利用者本位の活動を行い次年度に向けて3Q活動の促進に尽力いただきたい。」と挨拶した。

会議では、令和7年度JA普及推進目標達成に向けた総仕上げの取組み状況の確認に加え、令和8年度業務計画書（原案）、令和8年度のJA普及推進・保全計画策定にかかる支援について協議が行われた。最後に共栄火災商品目標達成に向けた取組みと、今後予定している代理店手数料ポイント制度の経過措置について説明されるなど、多岐にわたる議題が協議された。



▲開会のあいさつをする福田副本部長

行事 (12/10~1/10)

12月

10日

共済事業担当常勤理事会議（県農協会館）

1月

9日

運営委員会（県農協会館）



あおもり通信

— 農林水産省からJA関係者へ情報発信 —

連絡先
農林水産省東北農政局
青森県拠点地方参事官室
TEL : 017-775-2151

農業者のみなさん！ リスクへの備えはできていますか？



農業経営には様々な**リスク**があるんだよね…

自然災害で減収



市場価格が下落



災害で作付不能



病気で収穫不能



倉庫の浸水被害



取引先の倒産



盗難や運搬中の事故



為替変動で大損



よっしゃ!
農業保険がサポートします!!



収入保険をおすすめします！

様々な
リスク
をカバー
したい方

- ・青色申告を行っている農業者が対象です。
- ・全ての農産物を対象に、自然災害や価格低下だけでなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

農業共済をおすすめします！

自然灾害
リスク
をカバー
したい方

- ・全ての農業者が対象です。
- ・米、麦、畑作物、果樹、家畜、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。
※収入減少割認和対策（ナラシ対策）、野菜価格安定制度等を利用することもできます。

農業保険は国の公的保険制度で、保険料（掛金）の国庫補助があります。

詳しくはお近くの農業共済組合までお問い合わせください。



農業保険

検索

農林水産省

Webサイトでは様々な情報を公開中！
<http://www.maff.go.jp/keiei/mogyohoken/>

実践 農業者支援

令和7年度税制改正による農業青色申告支援の留意事項

1. はじめに

令和7年度税制改正により、①所得税の基礎控除の引上げ②給与所得控除の引上げ③特定親族等扶養控除の創設等が行われました。この改正は、令和7年分以降の所得税に適用されるため、青色事業専従者を含む従業員を雇用する農家の場合、令和7年分の年末調整や令和7年12月以後の源泉徴収事務（計算）が変更になりますので注意が必要です。

2. 税制改正の概要

- (1) 基礎控除額の引上げ (48万円→58万円)
- (2) 給与所得控除の最低保証額の引上げ (55万円→65万円)
- * (1) (2) により所得税の課税最低額（所得の壁）は103万円→123万円に引上げられる。

(3) 基礎控除の上乗せ特例

- ①低所得者層の税負担への配慮（恒久的措置）
→課税最低額（所得の壁）を160万円に引上げ
* (3) - ①により合計所得金額132万円以下の基礎控除額が95万円に引上げられる。
- ②中所得者層を含めた税負担軽減（令和7年・8年）
→合計所得金額により、基礎控除額（58万円）に37万円・30万円・10万円・5万円上乗せ



<基礎控除額の引上げと上乗せ内容> *は上乗せ

合計所得金額	基礎控除額		
	改正前	令和7年・8年分	令和9年分以降
132万円以下	48万円	95万円*	
132万円超 336万円以下		88万円*	
336万円超 489万円以下		68万円*	
489万円超 655万円以下		63万円*	58万円
655万円超 2,350万円以下		58万円	
2,350万円超 2,400万円以下		48万円	
2,400万円超 2,450万円以下	32万円	32万円	
2,450万円超 2,500万円以下	16万円	16万円	
2,500万円超	—	—	

(4) 特定親族特別控除の創設

「特定親族」とは、居住者と生計を一にする年齢19歳以上23歳未満の親族（配偶者、青色・白色事業専従者を除く）で、合計所得金額が58万円超123万円以下の人で、特定親族1人につき、特定親族の合計所得金額に応じた金額を控除する特定親族特別控除が創設された。

特定親族の合計所得金額	特定親族特別控除額	特定親族の合計所得金額	特定親族特別控除額
58万円超 85万円以下	63万円	105万円超 110万円以下	21万円
85万円超 90万円以下	61万円	110万円超 115万円以下	11万円
90万円超 95万円以下	51万円	115万円超 120万円以下	6万円
95万円超 100万円以下	41万円	120万円超 123万円以下	3万円
100万円超 105万円以下	31万円		

* 合計所得が58万円以下の場合、扶養控除の特定扶養親族（19歳以上23歳未満）に該当（63万円控除）

【注意】住民税の給与所得控除の見直しや各種扶養控除の所得要件引上げ等は令和8年度から適用。また、住民税の基礎控除の見直しはありません。

3. まとめ

今回の改正により専従者や雇人の年末調整や農家本人の確定申告時には注意が必要になります。また、基礎控除の変更に伴い、令和8年分以後の「源泉徴収税額表」等が新しくなりますので、青色申告会の研修会では、最新情報を提供するように注意するとともに、所得上昇や各種控除引上げ等を勘案し、青色専従者給与額の見直しなども検討する必要があります。

（中央会 農業対策部）

経営の窓口

J A役職員エンゲージメント調査と改善取組みを進めるために ～モデルJ Aの事例から学ぶ、青森県の方向性～

1. はじめに

J Aの事業運営を支える職員の確保・育成は、離職者の増加や新規採用者の減少傾向により、近年、J A経営における重要な課題となっている。

「J A役職員エンゲージメント調査」は、職員とJ Aの間の結びつきや、職員がJ Aに対して持っている貢献したいという気持ちと熱意を可視化する取組みである。

これにより、職員の潜在的ニーズが明確になることから、何を改善すべきかを判断できるようになる。

本稿では、令和6年度調査結果から見えた青森県内J Aの課題を整理するとともに、モデルJ Aとして先進的に改善活動を進めているJ Aゆうき青森の事例を紹介し、県内全体で目指すべき方向性について述べたい。

2. 令和6年度調査結果から見えた青森県の共通課題

令和6年度に実施された「J A役職員エンゲージメント調査」に参加した県内8J Aの結果を分析したところ、全国的な傾向と比較して、以下のような特徴が明らかとなった（下表参照）。

活用の視点から、「理念への共感」にあたる要因指標が、全国・青森県ともに重点対応項目となったが、エンゲージメントを押し上げる要因（強み）である。

また、「リソース配置」「キャリア」「経営陣との対話」については、全国・青森県ともに改善点となった。

設問の傾向からは、①J A事業活動や職員としての将来への不安、②適正な人員配置と説明不足、③経営層と職員のコミュニケーション不足が課題として浮かび上がっている。



表 青森県の共通課題（重点対応項目）6つと各設問

活用の視点	共通課題 「要因指標：重点対応項目」	各設問 (全国対比：強み・改善点)
理念への共感	「顧客志向」	「私は、組合の商品・サービスを知人に勧めたい。」 (全国・青森県ともに強み)
リソース配置	「リソース配置」	「職場には、業務を遂行し目標を達成するための要員(人員)が適切に配置されている。」 (全国・青森県ともに改善点)
キャリア	「教育・研修」	「総合的に見て、私は組合で将来なりたい自分の姿を実現できる。」 (全国・青森県ともに改善点)
経営陣との対話	「戦略の浸透」	「私は、組合の将来は有望であると信じている。」 (全国・青森県ともに改善点)
	「戦略の方向性」	「私は、組合のサービス・商品を通して、組合員・利用者のニーズに十分に応えることができている。」 (全国・青森県ともに改善点)
	「経営層への信頼感」	「経営層は、職員の声に対処している。」 (全国・青森県ともに改善点)

資料 令和6年度JA役職員エンゲージメント調査結果より作成

(注) 共通課題は、調査に参加した8JAのうち、4JA以上とした。(50%以上)

3. モデルJAの取組み

前述の調査結果を踏まえ、本県では、JAゆうき青森をモデルJAとした。
協議にあたるプロジェクトチームの編成は、監督者クラスと中堅職員を主とし、監督者クラスの中にはJA戦略型中核人材育成研修修了者2名を入れた計12名で、「働きやすく支え合う職場づくり」を目指した対応策を協議している。

また、プロジェクト協議には、(一社)日本協同組合連携機構 主席研究員 西井賢悟氏をコーディネーターに迎え、プロジェクト協議は、9月から12月にかけて、延べ4回行うこととしている。

協議の前後には、プロジェクトリーダーと西井氏、本会との3者による打合せを重ね、協議内容を踏まえたプロジェクトメンバーへの検討提案や先進事例の紹介等を随時行っている。

来年1月には、アクションプランの策定と、職員全体研修によるキックオフを予定している。

4. まとめ

モデル事例であるJAゆうき青森の取組みは、役員と職員が対話を重ね、課題を共有しながら現場の声を経営に反映させる姿勢を、エンゲージメント向上の実践モデルの例と捉えている。

本会は、このモデルJAの取組みを紹介し、横展開を図ることで、各JAにおける改善活動の参考とし、最終的にはエンゲージメント向上を目指したい。

各JAが事例を参考にしながら、自らの課題に取組むことで、青森県全体のJAが持続的に発展し、役職員が一体となって未来を描ける組織づくりにつながると考えている。

(中央会 経営対策部)

組織農政通信

J Aグループ基本農政確立全国大会及び 県選出国会議員との意見交換会

J A全中と全国農業者農政運動組織連盟は11月10日、東京都千代田区のベルサール半蔵門で、農業関係予算の抜本的な拡大、共同利用施設の集約・再編に向けた補助率引き上げなどを与党に要請とともに、J Aグループの意思結集と反映を図ることを目的に「J Aグループ基本農政確立全国大会」を開いた。オンラインを併用し、全国からJ Aや農政組織の代表者ら4,000人超が参加した。J Aグループ青森からは乙部輝雄青森県農協農政対策委員長（J A青森中央会会長）をはじめ、J A組合長ら15人が参加した。

主催者を代表してJ A全中の山野徹会長が挨拶し、要請の内容について説明を行った。また、生産基盤の弱体化や資材価格の高止まり、自然災害の多発化など、多くの課題に直面している状況に触れながら、「農業予算総額の抜本的な拡大は生産現場への前向きなメッセージとなる。共同利用施設の集約・再編へ補助率の引き上げや、手厚い地方財政措置をお願いしたい」と述べた。

要請を受け挨拶した自由民主党の森山裕食料安全保障強化本部長、宮下一郎総合農林政策調査会長、江藤拓農業構造転換推進委員長はそろって要請に理解を示した。ほかにも多くの与党国会議員も臨席し、司会から一人一人紹介された。

続いて、J A山形おきたまの若林英毅組合長、福岡県J A柳川の山田英行組合長、全国農協青年組織協議会の星敬介副会長、J A全国女性組織協議会の西川久美会長が意見表明した。経営的にも精神的にも苦しい産地の声を代弁し、老朽化が進む共同利用施設に関する補助の一層の引き上げや、実効性のある価格形成の仕組みづくりなどを訴えた。

その後、全国農協青年組織協議会の坂本裕之副会長が音頭をとり、参加者全員でガンバロー三唱した。

11月11日、J A青森中央会と青森県農協農政対策委員会はホテルグランドアーク半蔵門で本県選出国会議員との意見交換会を開催し、「農業構造転換集中対策の具体化等に向けた重点要請」と「野生鳥獣被害対策の強化」について要請を行った。

「農業構造転換集中対策の具体化等に向けた重点要請」では①農業関連予算総額の拡大と人件費・物価高騰をふまえた対応②農業構造転換集中対策の具体化等と強力な推進③持続可能な水田・畑作農業対策の早急な確立一などについて要請した。

「野生鳥獣被害対策の強化」では①野生鳥獣被害対策の財政支援の拡充と地域間連携の強化②個体群管理、侵入防止対策、生育環境管理の徹底運用を通じた現場力の強化③人材育成と普及啓発の充実一などについて要請した。

意見交換会では農業関連予算総額の拡大や、クマ、イノシシなどによる農作物の被害、農業施設の老朽化など地域農業が抱える課題について活発な意見が交わされた。

（中央会 農業対策部）



江渡衆議院議員に要請書を手渡す乙部委員長（右）



意見交換する各J A組合長ら

収穫祭・地産地消フェア

JAおいらせは11月8日、三沢市ミス・ビードルドームでJAおいらせゆめまつりを開催した。JAおいらせが主催するまつりとして7年ぶりの開催となる今回のまつりでは、農産物特価販売を通じて地元農産物の消費拡大とともに地産地消の理解促進を図り、組合員を始めとした地域の方々との交流を目的とし開催された。

農畜産物販売のほか、キッチンカーや関連団体の出店協力もあり、ステージイベントでは三沢市立第一中学校吹奏楽部によるオープニング演奏やふるまき祭礼祭囃子で会場は盛り上がり、大変賑わった。



三沢市立第一中学校吹奏楽部がオープニングを飾る



軽トラ市ではキャベツや大根などを特価販売



じゃがいも詰め放題は大盛況



お米大使がやってきた！



輝き



J A 青森中央会
農業対策部 農業支援課
ふじき ゆい
藤木 優衣 さん

●プロフィール

2025年4月から勤務 青森市出身 23歳

— 働くきっかけは？ —

地元青森で農業に携わる仕事に興味があったので入会しました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

営農指導員向けの研修会、農業簿記や青色申告について担当しています。

— 働いた感想は？ —

先輩方の知識量に驚きました。研修会を運営する側として、日々勉強中です。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

「報・連・相」を大切にし、分からることはすぐに相談するようにしています。

— 特技・趣味は？ —

刺繡が趣味です。最近は編み物にも興味があります。

— あなたが自慢できることは？ —

オムライスは美味しく作れます！

— 将来の夢は？ —

本州四端の踏破です。まだ最北端にしか行けていません。



リンゴ作業、
即売共同で
伝統守り地域に貢献

10月16日、
青森県青森市で



J A 青森浪岡青年部の部長を務める工藤慎也さんは、今年で部長就任3年目となる。青森市浪岡地区はリンゴ栽培が盛んな地域で、50人を超える同青年部の部員のほとんどがリンゴ農家だ。春の開やく作業に共同で取り組むほか、秋の「りんご大市即売会」に参加するなどリンゴに関する活動が主体となる。

工藤さんは就農15年目になるが、青森県営農大学校に通っていた当時は就農を考えていなかったそう。実家は農業を営んでいるが、同校で色々な資格を取得し、企業へ就職するつもりだった。卒業が迫った頃、母が体調を崩し入院した。その時、父から「出来れば就農して欲しい」という言葉もあり、父の助けになればと就農を決意。「タイミングですね」と工藤さんは話す。昨年、父から事業を継承した工藤さん。現在、両親とともに、リンゴ約80a、水稻約14ha、浪岡のバサラコーン約40aを作付している。

工藤さんは、青年部の活動とは別に、地元小学校児童の稻作体験学習にも協力をしている。父の代から30年以上続いている大切な行事だ。

今後について工藤さんは「今は、楽しく暮らせて仕事が出来れば良いと思っている」。青年部の活動や地域貢献についても「新しいことをやるのは難しいが、今やっていることは継続していきたい」と笑顔で語ってくれた。

新風

J A
十和田おいらせ

活動する意義を実感
女性部
食農教育と
部員増に力

J A十和田おいらせ女性部は、食農教育と部員の加入促進に力を入れている。これから地域をけん引する若い世代の入部を加速させようと、親子で参加できる体験型イベントの企画・運営に挑戦。食や農業を身近に感じることができると参加者から好評を得ている。

女性部員は11月1日現在、406人で構成される。イベント内容は会議などでアイデアを出し合ったり、県外視察で訪れた他J A女性部の活動事例などを参考にしている。

8月には夏休み新企画として「直売所かだあ～れでおつかい」、11月には昨年評判が良かった「おにぎらず」作りを開いた。これらの企画は、子ども達が一人でのおつかい挑戦や調理する体験を通して、自信や生きる力を身に付けることができる。親は子の成長する姿を間近で感じ、活動の意義を実感できる場となっている。

参加者からは「難しいと感じていた子どもの食育をサポートしてもらえて助かっている」「加入して他の活動にも参加してみたい」など次の企画を待ち望む声が聞かれている。

小川真利子部長は「地域の方が気軽に参加できる親しみのある組織にしたい。みんなで参加して、親から子へ、子から孫へと永く続く活動をしていきたい」と意気込んでいる。



おにぎらず作りに挑戦する親子ら

後編 記集

いよいよ寒さも本格的になってきて、今年もあっという間に年の瀬を迎えました。皆さんは2025年、どんな1年だったでしょうか？来たる2026年も良い年でありますようご祈念申しあげます。

さて、11月上旬に青い森公園で「SUSURU ラーメンフェス」があり、弘前市出身のYouTuber SUSURUさんが全国から厳選したラーメン店を一堂に集結したフェスで、多くのお客様が来場していました。私はその中の王道といわれている二郎系「俺のラーメン」をいただきました。チャーシューのボリュームがものすごく、ニンニクのパンチがきいており、大満足の一一杯でした。

皆さんも、次回開催される機会がありましたら行ってみてはいかがでしょうか？

Have a nice December (克)



▲ YouTuber「SUSURU TV.」のSUSURUさん（壇上 中央）

ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org>
商品・サービスのご案内のほか、マネシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

日本農業新聞
電子版が

アプリでさらに便利に!

日本農業新聞ニュースアプリ

最新の記事はトップに大きく掲載されます。読み込み速度も速く、読みたい記事にすぐにアクセスできます。

その日の記事を
すぐにチェック

※画面はイメージです

スワイプで移動 / カテゴリメニューがスワイプで簡単に選択できます。
長押し+スライドで読みたい順に並び替えもできます。

カテゴリ記事に簡単アクセス

お問い合わせ 日本農業新聞 電子版事務局 dkanri@agrnews.co.jp

動画で操作方法など説明

アプリをダウンロードする

お問い合わせ

アプリへのログイン方法や特長など、詳しい説明をご覧いただけます。

※ アプリのダウンロードには「Apple ID」または「Googleアカウント」が必要となります。※ App StoreはApple Inc.のサービスマークです。※ AndroidはGoogle Inc.の登録商標です。

100周年記念

家の光

IE no HIKARI

「食と農」「暮らし」「協同」「家族」を柱に
「人生100年時代」の元気づくりを応援していきます!

読者に寄り添い
より身近で活用しやすく

お申し込みはお近くのJAへ

誌名	定価(税込) ※毎号統一価格
家の光 IE no HIKARI	900円

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <https://www.ienohikari.net/>